貫井の風

令和２年度　１月号

ＮＯ．１０

練馬区立貫井中学校　学校だより

「目標をもつ」

校長　桐野　和之

新しい年を迎えました。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

昨年は新型コロナウイルスにより、今までにない経験をしました。

入学式の延期、運動会、修学旅行、スキー移動教室、合唱コンクールの中止等。学校の長期臨時休校。学校の年間行事予定の変更や見直し。密を避ける。そして、東京オリンピック・パラリンピックの延期。まだまだコロナ禍は続きます。でもここで必要なのは、このような状況下でも、絶対に折れない気持ちや心ではないでしょうか。

昨年の漢字は「密」が選ばれました。まさに世相を表していますが、良い意味で捉えた「密」を考えたいものです。人と人の関係がより良い意味での絆の強い密の関係になる。苦しい状況の中でも必ず前を向く。ピンチをチャンスに変える。ともに苦しいことを乗り越える。このような意識が必要かと思います。

さて、年の初めに生徒の皆さんは今年一年の目標をどのように考えましたか？以前にも話をしたことがありましたが目標をもつにはできるだけ具体的なことが良いといいました。

例えば、勉強ができるようになりたい。英語の成績を良くしたい。英語がしゃべれるようになりたい。部活動で勝てるようになりたい。これらは目標ではなくあくまでも願望です。では目標とはどのようなものか？それは〇〇をするということをより自らが具体的に示すことだと思います。

勉強ができるようになりたい。それならどの教科？例えば社会科で日本の都道府県名と県庁所在地をしっかりと覚える。そのために毎日地図帳を見る。そして日本地図を書いて都道府県名と県庁所在地のおおよその位置を記してみる。あるいは世界の国名と首都名、そしてその位置を少なくとも 150 カ国以上覚える。そのために、やはり毎日地図をみる。世界地図を書いてみる。それも今年の３月までに必ず覚えるようそれまで毎日努力する。

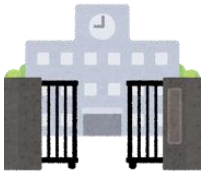
目標をもつこととは、いつまでに、なにを、どのように、どの程度進めるのか。自分自身と相談をし、自問自答をしながら考えることをいうのではないでしょうか。目標をもつために、自分で考え、自分で進み、例え失敗をしても、また失敗の原因を自ら振り返りながら考えることができるようになる。このようなことを考えると、具体的な目標をもつことは楽しくありませんか。

遅刻をしない。ではどうすれば良いのか。早く寝る。そのためには具体的に何をするのか。例えば見るテレビを限定する。遅くとも９時半までには自分の勉強と見たいテレビの時間を終了させる。朝は早く起きる。そして朝は家を早く出る。このようなことを自分でいろいろと考え、そして試すことにより、自主的に行動するようになることで何事も楽しくなるのではないでしょうか。でも、大切なのは強い意志をもつことです。いい加減でいいやとか、面倒くさいと思うとやはり進み具合はそこで止まってしまいます。ぜひ、今年一年の具体的な目標を定めて、楽しい学校生活を送るようにしてください。

「努力するということ」

３学期始業式講話

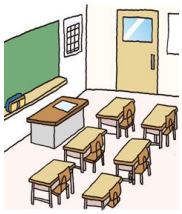
子どもの頃、といっても、中学生の頃だったと思います。先生や親から「努力」という言葉を聞くとなぜか素直に受け止められない。先生や親が嫌いなわけではない。ただ「努力」という言葉に、素直になれない自分がいました。反抗期だったのか。



「努力」という言葉に、何もかもを犠牲にし、目的に向かって突き進むことが正しいというニュアンスを感じ、それにどうしても賛成できない自分がいたのだと思います。

しかし、今は「努力」という言葉が好きです。もちろん、人間、一生懸命努力したからといって、それで目標が達成できるとは限りません。つまずくこともあります。ただ、つまずいた場合、どうして目標が達成できなかったのか、どうすれば良いのか、その原因を探り、反省し、新たな一歩を踏み出すことも「努力する」ことだ、と考え直せた時から、「努力」は好きな言葉になったのです。突き進むことだけでなく、立ち止まり、振り返ることの大切さに気が付いた時、「努力」という言葉の世界が私の中で大きく変化し、ぐっと広がったのです。そして、大人になるにつれ、自分自身のことでなくても、頑張っている周囲の人たちを認めることも「努力」の大きな要素であると考えられるようになりました。

さらに、「努力」に無駄はないと思い始めました。向上心のある限り、たとえ一つの目標に対する「努力」が失敗に終わっても、必ず他で活かされる道が残っている。それが「努力」の強みだと思い直したからです。とはいえ、この年になってもまだまだ未熟な私は「つもり」や「はず」という言い訳、自己弁護が多いと日々反省しています。



「努力」を評価するのは自分ではなく、あくまで他人です。「努力したつもりなのに・・・」とか、「あれだけやればうまくいくはずなのに・・・」というのは自己満足や甘えでしかないのです。

ただし、この「つもり」や「はず」はなかなかしぶといもので、よほどこちらが引き締めていないと、ちょっとした隙間にもすぐに顔をのぞかせ、成長を始めます。十分な注意が必要なのです。

みなさんは、「努力」ということについてどう考えますか。決して自分を卑下する必要はありませんが、「自分としては努力したつもりなのに、それを認めないのは認めない相手が悪い」と思ってしまったら、そこには進歩はないのではないでしょうか。ぜひ、本当の意味での「努力する人」になってほしいと思います。

私の中学生時代　～シリーズ②～

「受験期に思うこと・・・」

男性教諭

この時期になると、３年生はプレッシャーのかかる時期を迎えていることと思います。でも私は今の中学生を羨ましく感じています。その理由は・・・？

私には中学校３年生の頃、強く進学したいと思える学校がありました。仮にＡ校としましょう。Ａ校は緑に囲まれた伝統校で、何よりもグランドも広くサッカー部の活動が盛んな学校でした。ところが私が受験した頃の都立高校は、一つのグループを受験し、合格した後は自らの意思とは関係なしに、勝手に振り分けられるという仕組みでした。Ａ校は、比較的新しいそれでもグランドの広いＢ校とグランドはテニスコート２～３面程度、そしてサッカー部のないＣ校と組んでいました。

話は変わりますが、私には幼稚園の頃から仲の良かった親友Ｏ・Ｔ君がいました。彼も私とは違うグループでしたが都立高校を受験していました。彼とはお互いに同じ私立高校を第二希望として受験していたので、受験前からもしも私がＣ校に回されてしまい、万が一Ｏ君が不合格になった場合は、一緒に第二希望の私立高校に進学しようと話していたものでした。さて、結果は・・・。

合格発表の日、まずＡ校をみました。ありません。次にＢ校をみました。ありません。頭の中が真っ白の状態で補欠合格の掲示板をみました。ありません。自分の頭の中に絶望の二文字が駆け巡る中、Ｃ校をみました。・・・６６３番がありました。

家に帰るとＯ君から電話があり、彼の都立高校不合格を知りました。さあどうしよう？さんざん悩み、親ともども担任に呼ばれ・・・結局は友人を裏切り、サッカーも諦めＣ校を選びました。なぜあんなに好きだったサッカーを諦めＣ校を選んだのか？それは共学の魅力に勝てなかったのでしょう。３年生の皆さん、自分の希望する学校を受験できることは幸せなことなのですよ。

「やればできる！」

男性教諭

横分けした髪形を風になびかせ、初々しい顔で昭和４７年４月に練馬区立上石神井中学校に私は入学しました。早々に実施された３科学力テスト（この頃から業者テストが導入された）で偏差値５４という数字結果が渡され、「なにこれ？」と意味が分かりませんでしたが、周囲の悪友たちから「すごいじゃん！」と言われました。

同じ年に新任として赴任したＡ先生（後に貫井中学校校長）が柔道部を創設、３年部員は不良の塊、総勢５０名近くのメンバーで様々な経験（校外ともに今では考えられない日々の楽しい？生活）を積んで中３の夏、都大会団体戦で見事に優勝して全国大会出場を果たしました。秋には文化祭で映画を製作して上映、大盛況。将来は自分のうちのラーメン屋を継ぐか、映画監督かと周囲に期待をもたせましたが、結局は風まかせ。柔道の強豪校からお誘いを受け、では一発、高校で花を咲かそうかと受験。

試験発表当日、意気揚々と合格を見に行ったところ、番号がない！　あわてて中学校に電話してＡ先生に「番号がないです。」と報告したら、「んなことはない！よく見てこいー！」とあせったようす。でもない！おろおろして捜していたら、体のでかい連中が同じようにおろおろして歩いていました。結局のところ、裏庭に掲示されていた正規合格点が取れていないスポーツ推薦者用「補欠合格者掲示板」に番号が載っていました。めでたし、めでたし。考えも甘く、３年間ヘロヘロ。でも大学４年間の合宿所生活を経て「男の意地」を貫き、教員を目指しました。ちなみに中３の１２月に実施された業者学力テスト３科の偏差値は「３６」。でも大丈夫！こうやって学校の先生になり、素晴らしい奥さんがいて、かわいい娘もいて楽しい生活を送ったんだから！みんなに言っておきます！「やればできる！」　　以上

○少し古いのですが、全国中学生人権作文コンテストの入賞作品を紹介します。生徒の皆さんには学習について考えるきっかけになればと思います。

「学ぶことは生きること」

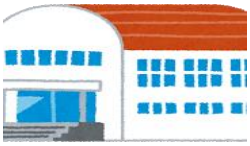
目を閉じて想像して欲しい。あなたは日本人で大人だと仮定しよう。家から一歩外に出ると、あなたは不安で落ち着かず，自信がなくなる。街を歩くと、目に入る看板や案内の文字が分からず、あれは何

を意味しているのだろうと考える。そしてそんなことも分からない自分はクズだと想う。バスに乗っても「運賃」という漢字や行先を告げる文字が読めず、乗るのが怖くなる。自分はいつも不確かで分からないものに囲まれた世界で生きていると感じる。あなたは、なぜこんなに困っているのだろうか。

私は今年の夏休みに、岡山自主夜間中学へ学習ボランティアとして通った。先ほどの例は実際にここに通われているＡさんの話だ。Ａさんは幼い頃に大病を患い、小学三年生から不登校となった。中学校もほとんど通わないまま卒業証書だけを受け取った「形式卒業者」である。きつい肉体労働の仕事に就くが病気のために辞めてしまい、その後も職を転々とした。字が読めない、書けない、計算ができないために仕事が選べず、恥ずかしい思いを数えきれないほどしてきたという。

夜間中学校とは、Ａさんのように不登校など様々な事情で十分な教育が受けられないまま中学校を卒業した人、現在不登校の中学生、戦後の混乱期の中で義務教育を修了できなかった人、外国籍の人など多様な背景を持った人々に義務教育を受ける機会を保証するために作られた学校である。現在、全国に公立夜間中学校が八都府県で３１校、ボランティア団体等が行う自主夜間中学校は１６都道府県で３７校ある。私がボランティアに通った岡山自主夜間中学には、十代から八十代までの五か国の生徒が約４０人通っている。生徒はみんな私と同じ「中学生」ということだが、教室を見渡すと多様性に富み、世の中には本当に様々な中学生がいるものだと驚いた。

ある日、私は自分の祖母よりも年上であるＢさんの分数の勉強を手伝った。ここでは基本的に先生と生徒が一対一で勉強する。Ｂさんは、現役中学生の私がボランティアとして通っていることに驚き、なぜ自分が今になって夜間中学に通っているのか、義務教育を受けなかったために、今までどれほど苦労して生きてきたのかを話してくださった。そして「珠生ちゃんのように若い時にこんな勉強ができていたら、今頃もっと幸せなのかねえ。」と呟かれた後、驚くべきことばを発した。「今日習ったことを忘れたくないから宿題を出してください。」と言われたのだ。私は自分の耳を疑った。宿題は私の天敵である。私が通う中学校では、生徒の意思に関わらず、自動的に宿題が山のように出される。勉強が得意ではない私は、「どうして勉強しなければいけないの？こんな勉強、何の役に立つの？」と学ぶこと自体を否定し、宿題も嫌々していた。だから、Ｂさんに宿題が欲しいと頼まれたとき、私は自分が恥ずかしくなった。Ｂさんをはじめ、夜間中学に通う方たちの学びに対する情熱がまっすぐでとてもまぶしかった。そして多くの方は、この夜間中学へたどり着くまで「何のために学ぶのか」など考える余裕もないほど、ただ必死に生きてこられたことを思うと、自分がいかに恵まれて甘えているのかを痛感した。（中略）



私たちは日本国憲法や教育基本法等で、教育を受ける権利を保証されているはずである。しかし現実には夜間中学で出会った方たちのように十分な教育が受けられず、劣悪な状況に追いやられて生きている人たちがいることを私たちは忘れてはならないと思う。学びを求めている人たちに、もっと「教育の機会」を届けたい。

私が尊敬するマララ・ユスフザイさんの国連のスピーチが私の背中を押してくれる。「一人のこども、一人の教師、一冊の本、そして一本のペン。それで世界を変えられます。教育こそがただ一つの解決策です。教育を第一に。」

私は本当に小さなことしかできないが、これからも夜間中学の学習ボランティアの一員として、学びの場を守り、共に学んでいきたい。学ぶことは生きること。私はこの夏、岡山自主夜間中学の皆さんに、学ぶことの意味を教えていただいたと思う。